

国立大学法人筑波大学長の業績評価結果

1 目的

国立大学法人筑波大学学長の業績評価に関する要項（平成27年3月18日学長選考会議決定）に基づき、学長選考会議は、監事との連携協力のもとで年に一度、学長の業績評価を実施する。

2 日時等

- (1) 日 時：令和元年10月23日（水）16時15分～17時30分
- (2) 場 所：東京キャンパス3階337号室
- (3) 方 法：学長からプレゼンテーションを実施し、学長選考会議各委員との質疑応答による対話と討論を実施する。その後、学長選考会議において業績評価結果の取りまとめ審議を行い、評価を決定する。

3 プレゼンテーション内容

学長から、「独自性を活かした教学およびマネジメントの将来構想」と題して、18歳人口の急激な減少と我が国の国家財政の状況など大学を取り巻く状況や求められる人材についての説明の後、以下の5つの項目について具体的な説明が行われた。概要は以下のとおりである。

- (1) 本学における教育と人材育成
 - ① トランスファラブルスキルの修得の重要性
 - ② 大学院改革～学位プログラム化を中心として～
 - ③ 教学マネジメントの充実～教育の質保証～
 - ④ 情報工学分野の学士課程教育
 - ⑤ 人材育成～「情報」教育～
- (2) 本学における研究と社会貢献
 - ① 本学の特徴である研究グループ制とそれを補完する仕組みづくり
 - ② 研究センターの級別・機能別分類
 - ③ 研究センター化の実例：微生物サスティナビリティ研究センターの設立
 - ④ 論文数の増加と質の向上
 - ⑤ 科学技術イノベーション創出と社会還元の促進
 - ⑥ 民間との共同研究の受入増加
 - ⑦ デジタルサイエンス分野における協働研究構想
 - ⑧ 国際産学連携の強化と共同研究受入額の増加
 - ⑨ R&Dセンター～外部資金による自律的運営～
 - ⑩ 産学連携強化プロジェクト／共同研究実用化ブースト事業の推進
 - ⑪ 他機関との合わせ技的ファンドの実施
- (3) 筑波大学が目指す国際共同の姿
 - ① SGU（スーパーグローバル大学創成支援事業）中間評価における最高評価の獲得
 - ② Campus-in-Campus の達成状況及び今後の展望
 - ③ 海外教育研究ユニットの招致
 - ④ 最近の inbound と outbound の学生数の状況

- ⑤ 海外留学支援事業「はばたけ！筑大生」の展開
- ⑥ 筑波大学スタートアップエコシステム
- ⑦ 本学の海外研究交流戦略

(4) 教育研究を支えるマネジメント

- ① 外部資金獲得の重要性と職員の役割の拡大
- ② 最先端の科学技術を社会実装する拠点「つくば」のまちづくり
- ③ 平成30年度国立大学経営改革促進事業の実施
- ④ 研究力強化に資する人事戦略改革
- ⑤ 筑波大学校友会の活動の展開
- ⑥ アスレチックデパートメントの活動
- ⑦ 附属病院におけるトランスレーションリサーチ
- ⑧ 若手版ダボス会議としての「筑波会議」の実施

4 学長と学長選考会議委員との主な質疑内容

学長によるプレゼンテーション後、学長と委員との間で、以下の内容について質疑応答が行われた。

- ① 学生の受け入れ面での国際化について
- ② 教育研究のグローバル化と情報教育の重点化の中での文系の在り方について
- ③ 大規模大学である本学の学生・教員間の距離感について
- ④ 学生の海外派遣の人数や派遣期間等について
- ⑤ 外国人教員の採用状況について
- ⑥ 経験者採用を増やす企業が多くなってきている中での社会人教育について
- ⑦ 企業からの日本の大学への投資が増えない原因やその打開策について
- ⑧ 応用から基礎を身に着けさせる教育等、教育のレベルアップについて
- ⑨ 本学のネクストリーダーの育成について
- ⑩ 「筑波大学ブランド」としてのスポーツについて
- ⑪ STEAM教育の重要性と芸術の貢献について

5 学長選考会議委員からの要望

永田学長は、国立大学法人筑波大学長として、そして、一般社団法人国立大学協会会長として、大学を取り巻く社会の急激な変化や厳しい状況に深い理解と思いを寄せて、本学の運営を行っており、企画・経営・実践すべての面で能力が高く、大変評価できる学長である。一方、様々な取り組みを進めるにあたっては、引き続き、学内構成員の業務負担感の軽減や一体感の醸成に努めて頂きたい。また、筑波大学は、旧7帝大に伍する大学であり、さらに国際競争力のある研究大学として、我が国を牽引していく立場になるためには、1つの方策として、大学ランキングの向上、特に、論文数の増加が重要であると考えられることから、施策を立てて実践して頂きたい。

6 業績評価

学長のプレゼンテーション及び委員との質疑応答を踏まえ、今回の評価項目である当該年度における取組・進捗状況、学長所信の状況等を総合的にかつ慎重に検討した結果、順調かつ着実に筑波大学を大きく発展させていると判断する。

7 評価結果の公表

業績評価結果については、本学のホームページに公表し、周知を行うものとする。